株式会社 アトレ

with atré

Sustainability Report 2024

撮影：アトレ恵比寿 西館 8階 シロノニワ

「アトレ サステナビリティアワード2024」において、栄えある賞を受賞した各店の代表者4名と、代表取締役社長 髙橋弘行による座談会を開催いたしました。本セッションでは、サステナビリティ推進における各取り組みの成功要因や地域社会との連携、活動を通じて得られた意識の変化、そしてアトレが目指す今後のビジョンについて、多岐にわたる意見が交わされました。

atré Sustainability Award 2024 winner

［グランプリ］
プレイアトレ土浦
福岡 丞

［社会部門賞］
アトレ取手
澤村 佳絵

［環境部門賞］
アトレ恵比寿
小暮 健人

［人部門賞］
アトレ竹芝
後藤 淳生

※「アトレ サステナビリティアワード」の表彰内容詳細につきましては、P.9をご参照ください。

dialogue

アトレの未来を拓く サステナビリティと地域共創の可能性

facilitator

株式会社アトレ
代表取締役社長
髙橋 弘行

1967年生まれ。90年に東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）に入社。総務や経営企画、営業の各部門を経て、東京支社営業部長、本社営業部次長を歴任し、2017年に株式会社びゅうトラベルサービス代表取締役社長就任。19年にJR東日本執行役員営業部長、21年にJR東日本常務執行役員を経て、23年6月から現職。

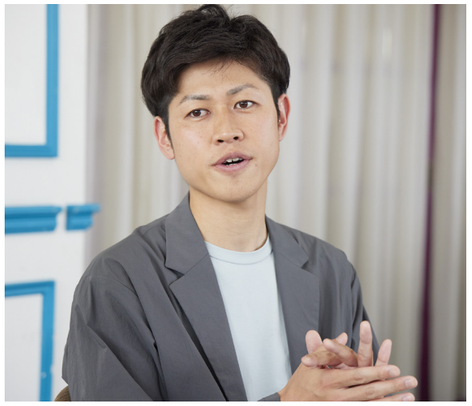
サステナビリティ活動から生まれる価値と成果

はじめに —— 受賞した取り組みへの期待と問いかけ

社長：本日は、「アトレ サステナビリティアワード2024」を受賞された皆様にお集まりいただきました。皆様の先進的な取り組みは、アトレが持続可能な社会の実現に向けて歩むべき未来を照らす、大変意義深いものです。それぞれの活動には、多くの共通項や、アトレ全体のサステナビリティ推進における重要な示唆が含まれていると感じています。まずは、各取り組みの経緯や具体的な成果、そしてその過程で直面された課題や苦労についてお聞きします。

福岡：プレイアトレ土浦が取り組む「いばらきK1ライド」は、2022年の「茨城デスティネーションキャンペーン（DC）」を契機として発足した、地域を代表する大規模サイクリングイベントです。当時、土浦市は「自転車のまち」としてのブランディングを推進していましたが、それを象徴するような代表的なイベントが存在しないという課題認識がありました。そこで、ナショナルサイクルルート「つくば霞ヶ浦りんりんロード」沿線に立地する14の市町村に対し、地域が一丸となったイベントを創出することの重要性を丁寧に説明し、ご理解とご協力を賜るところから着手しました。単なるサイクリングイベントに留めるのではなく、参加者が休憩するエイドステーションにおいて14市町村の特産品を提供し、当イベントへの参加を通じて茨城県産の食の魅力を一度に堪能できるといった独自性を付加することで、地域の観光プロモーションの場としての機能も強化しています。

澤村：アトレ取手では、4階の文化交流広場「たいけん美じゅつ場 VIVA」の活動開始から約5年を迎えました。取手市、東京藝術大学、東日本旅客鉄道株式会社、そしてアトレの四者が連携し、現代社会の様々な課題や将来展望などについて、行政と市民が共に議論を深める対話型フォーラム



「VIVAフォーラム」を毎年開催しています。VIVAは年間約36万人の皆様にご利用いただいており、そのうち約3割を高校生をはじめとする若年層の方々が占めています。本年は「『正解がない時代』の『生きる力』を育む学びとは～若者の居場所としての駅ビル～」をテーマに掲げ、多くの若者が集うVIVAの潜在的な可能性について、中村取手市長や東京藝術大学の日比野学長、教授陣、髙橋社長にもご登壇いただき、建設的なディスカッションを行いました。

小暮：アトレ恵比寿が取り組んだ「エシカル消費を意識した、つづく・つながる館内装飾」は、販売促進業務を担当する中で、館内を彩った後に廃棄されてしまう季節ごとの花々や装飾物の再利用について、かねてより課題意識を抱いていたことが発端です。そのような折、2023年に開催された「渋谷イノベーションウィーク」におけるパネルディスカッションの一つ、「エシカル協議会」に登壇する機会を賜りました。そこで「花のロスを減らし、花のある生活を文化にする」という崇高なミッションを掲げ、ロスフラワー®を活用した事業を展開されている企業様と出会い、その理念に深く共感しました。この出会いを契機とし、通常であれば廃棄されるか、あるいは市場に出回ることのない花々をドライフラワーとして

再生させ、アトレ恵比寿のショーウィンドウやエントランス周りの装飾として再活用する取り組みを実践しました。さらに、これらのドライフラワーをミニブーケに仕立て、母の日にお客様へプレゼントするイベントも開催し、お客様やショップスタッフの皆様からも、この取り組みの意義について温かい共感のお言葉を多数頂戴しました。特筆すべきは、この活動が地域の小学校の先生の目に留まり、恵比寿にある小学校においてエシカル消費をテーマとした授業を実施する機会へと発展したことです。その後、児童たちがエシカルについて主体的に学習した内容を発表する「テーマプロジェクト発表会」にも参加させていただきました。

後藤：アトレ竹芝の「伊豆・小笠原諸島との連携企画」は、2022年より構想を練りはじめ、まず竹芝という立地にあるアトレだからこそ実現可能な取り組みとは何かを模索することから着手しました。竹芝は、伊豆・小笠原諸島と本土とを結ぶ重要な玄関口としての役割を担っています。手つかずの雄大な自然が残り、伝統的な行事や独自の文化など、魅力にあふれる伊豆・小笠原諸島の素晴らしさをより多くの方々に認知していただくことが、地域の活性化、ひいてはエリア全体の価値向上につながるものと考えました。そこで、各島の観光協会様へ直接ご連絡を取り、関係性を構築することからはじめ、2023年度には「島を味わうFood Fest」と題したレストランフェアの開催に至りました。各観光協会様より食材の取り扱い先を複数ご紹介いただき、レストランにて島の食材をふんだんに用いたオリジナルメニューを提供するとともに、島の自然や文化を紹介するパネル展示なども実施しました。お客様や各島の関係者の皆様からは大変ご好評をいただき、参加されたショップの方々からは「予想を上回るメニューの販売実績があり、レギュラーメニューとしての採用も検討したい」という、大変前向きなお声も頂戴しています。

社長：皆様にお伺いしたいのですが、それぞれの取り組みを推進していく上で、成功へと導くために特に意識された点はどのようなことでしょうか。

福岡：私どもの取り組みが成功した要因としては、単年度のイベントとして捉えるのではなく、5年後、10年後といった将来を見据えた長期的な視点で計画を策定したこと、そして地域の関係者の皆様を積極的に巻き込んでいくという点に、特に意識して取り組んだ結果であると考えています。当初より、プレイアトレ土浦が地域のハブとなり、我々がエリア全体を牽引していくという強い意志を持って臨んだこともあり、地域の皆様から様々な情報を得て、強固な関係性を構築することができました。これが、アウトプットの段階で非常に効果的に機能したと分析しています。はじめはプレイアトレ土浦の営業部3名という限られた人数でゼロから立ち上げましたが、イベントを単に実施するだけでなく、その後の文化醸成までを視野に入れていましたので、継続的な働きかけが必要な部分においては、人的リソースも時間も要し、大変な労力を伴いました。

小暮：アトレ恵比寿の取り組みにおいては、多くの皆様の心を和ませ、温かい気持ちにさせる「花」という素材を採用し、館内装飾として活用したことが、成功の大きな要因になったと認識しています。リサイクルやアップサイクルといった、資源を循環させていくことに対する社会的な意識が、昨今ますます高まっていると感じています。しかしながら、再生することを優先するあまり、再生されたものが必ずしも良質なものではなかったり、かえって不要なものを生み出してしまったりする事例も一部にはあるのではないでしょうか。そのような状況下において、花を扱う生花店様、装飾を施すアトレ、そして何よりもお客様に笑顔になっていただける花を活用したこの取り組みには、様々な可能性を感じました。先ほども触れましたが、2023年11月の「渋谷イノベーションウィーク2023」での経験を機に、サステナビリティに関わる活動について真剣に考えるようになり、ロスフラワー®に取り組む企業様との出会いから2024年1月の施策実施まで、2ヶ月に満たない期間で実現に至りました。このスピード感で実現できたのは、携わってくださった皆様の共感の深さがあったからこそだと確信しています。

後藤：アトレ竹芝の場合、各島の観光協会様と直接コミュニケーションを取らせていただくことで、島が本当に伝えたい魅力やPRしたいポイントを的確に汲み取ることができ、取り扱う食材についても様々な角度から協議を重ねて進めることができました。私たちが想像していなかった、例えばウツボなどの食材をご提案された際には正直驚きましたが、ショップの方々も非常に協力的かつ積極的に取り組んでくださり、ウツボをフリットにしたメニューを開発してくれました。また、三宅島の明日葉をチャーハンに仕立てたメニューも、島の方々にとっては斬新な発想であったようで、新たな発見を通じて、島の魅力と食の魅力の双方を巧みに掛け合わせることができた点が、成功の要因であったと分析しています。

THEME 01

地域連携によって生まれる相乗効果

地域連携の核心と、意識変革の触媒としての役割

社長：皆様のお話から、取り組みを成功に導くためには、地域との連携がいかに重要であるか、そして周囲を巻き込みながらサステナビリティへの意識を醸成していくことの必要性を改めて感じます。皆様が地域連携において特に大切にされていることや、活動を通じて周囲の意識にどのような変化が見られたか、具体的なエピソードを交えてお聞きかせいただけますか。

澤村：アトレ取手では、VIVAで活動するアート・コミュニケータの皆様を「トリばァ」と親しみを込めてお呼びしており、VIVAの活動にとって不可欠な存在となっています。「トリばァ」が小学校などで授業を行い、児童たちとコミュニケーションをとり、その後VIVAに集まって対話型鑑賞を実践するという一連のプログラムは、VIVAの代表的な活動の一つとして定着しています。このような教育機関との連携、そしてアート・コミュニケータが伴走者となる対話型鑑賞プログラムは、地域との連携強化にも大きく貢献しており、「トリばァ」の数も年々増加しています。また、2025年度には、取手市内全14校の小学3年生を対象に、この対話型鑑賞プログラムを実施する予定です。先日、市内の小中学校の校長先生方にお集まりいただき、本プログラムをご体験いただいたのですが、最初はやや緊張した面持ちでいらっしゃった校長先生方が、コミュニケーションを重ねるうちに、次第に楽しそうにお話をされているご様子が大変印象的でした。

後藤：アトレ竹芝では、特に竹芝エリアをマネジメントする組織の皆様と緊密に連携させていただきながら、エリア全体の活性化に努めています。主に近隣企業や、島の観光協会の皆様も含め、定期的に伊豆・小笠原諸島の振興について協議を重ねています。私どもが企画した「島を味わうfood fest」も、結果として相互送客につながり、エリア全体として島を盛り上げていきたいという皆様の想いは共通であるため、一丸となって事業を推進できる環境が整っていると感じています。この取り組みによって、周囲の方々の意識も少しずつ変化していると感じていますが、皆様の店ではいかがでしょうか。

福岡：「いばらきK1ライド」は、立ち上げから運営へとフェーズが移行し、そして現在はさらに新しいステージへと進んでいく過渡期にあると認識しています。昨年から新たに参画したメンバーは、私自身もそうでしたが、当初は戸惑うことも多かったと推察しています。それが、具体的な事象を俯瞰で捉え、思考を深めることで、より本質的な理解へとつながり、納得感が醸成されていったのではないかと考えます。メンバー全員が真剣にこの取り組みに向き合っており、プレイアトレ土浦の文化が着実に引き継がれ、その熱量の高さには目を見張るものがあります。

澤村：大変お恥ずかしい話ではありますが、以前の勤務地にいた頃は、VIVAの取り組みについての認識が十分ではありませんでした。それゆえ、現在の部署ではメンバーと日常的に対話を重ね、積極的に情報を発信したり、社内掲示板に掲載したりするなど、VIVAの取り組みを少しでも多くの皆様に知っていただけるよう、意識して活動しています。何かしらの反応をいただけた際には、社員だけでなくVIVAスタッフのモチベーション向上にもつながっています。小暮さんもお話されていましたが、共感は非常に大切なことであり、それによって多くの人々の心が動いていくのだと実感しているところです。

THEME 02

「サステナビリティ」と「事業成長」の両立に向けて

社会的価値と経済的価値の両立という、アトレが挑むべき経営テーマ

社長：サステナビリティの推進と事業の成長を両立させることは、我々にとって極めて重要な経営課題です。社会的価値の創出と経済的価値の追求という、時に両立が難しいとされるこの課題を、皆様はどのように捉え、乗り越えようとされているのか、そのヒントとなるご意見を伺えればと思います。

福岡：茨城県および土浦市の観光戦略における重要な柱の一つがサイクリング関連事業ですが、マネタイズの面では長らく試行錯誤を続けており、「いばらきK1ライド」もこれまではアトレが販促費用を負担する形で主催してまいりました。しかしながら、初年度約200名規模であった参加者数が、3回目となる2024年には900名規模にまで成長しました。運営面などでの効率化は引き続き必要ですが、あと数百名参加者を増加させることができれば、行政主体の事業として自走できる段階に達しつつあると手応えを感じています。実際に、約900名の参加者のうち8割以上が県外からのご参加で、さらにそのうち4割以上が宿泊を伴う来街であったというデータも得られており、このイベント開催による地域への経済効果は着実に表れはじめていると認識しています。

澤村：VIVAに関しては、主に社会的価値の側面を拡充させる形で取り組んできましたが、今後はそこにショップの皆様をより積極的に巻き込んでいくことで、経済的価値とのバランスを追求していきたいと考えています。先日、ショップ向けの運営方針説明会においてVIVAの活動を改めてお伝えしたところ、あるショップより、ぜひ一緒に取り組みに参加したいとのお申し出をいただきました。ショップの皆様を積極的に巻き込んでいくことで、経済的価値のバランスも取れるよう、具体的なアクションを開始したところです。

小暮：アトレ恵比寿の取り組みは、新しい価値を生み出していく活動であると捉えています。今回、多くの方々からの共感を得て、新たな価値を創造することができました。真っ先に共感を得たのは、まずはショップの皆様からでした。この取り組みをきっかけに、ショップの方々から「実は自店でもこのようなサステナブルな取り組みを行っているので、アトレの共有スペースでそういった情報を発信するイベントを実施したい」といったお声をいただくようになりました。また、将来的には、サステナビリティに力を入れていらっしゃるショップが、「このような先進的な取り組みを行っているアトレであれば出店したい」とおっしゃってくださる可能性もあると考えています。

THEME 03

持続可能な未来のために新たな価値創造へ

アワード受賞を契機とした、アトレのさらなる飛躍と未来への展望

社長：最後に、皆様が今回の受賞を糧とし、今後どのような未来を描き、どのような活動に挑戦していきたいとお考えか、その展望をお聞かせください。

福岡：この度は、グランプリという大変名誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。しかしながら、私どもは「いばらきK1ライド」のみならず、首都圏の駅に複数立地するアトレの拠点性やつながりを活かした街づくり全般に取り組んでいます。徐々に地域の皆様に認知され、応援していただける体制が整いつつありますが、まだ属人的な側面に頼る部分も否めません。今後は、よりシステマチックな運営体制へと転換し、誰が担当しても継続的に活動を推進できるような組織づくりを進めていく必要があると考えています。

小暮：現在、化粧品の廃棄も非常に大きな社会問題として認識されています。その廃棄化粧品を回収し、絵の具の画材として再生させ、アート活動を展開されている企業様が、私どもの取り組みに共感してくださり、先日、化粧品と循環というテーマで共同イベントを実施しました。このように、共感を生む取り組みをきっかけとして、それに紐づいた新しい活動が増えていると実感しています。そもそも、こうしたサステナビリティへの取り組みがなければ、新しい方々との出会いは生まれなかったことを考えると、アトレ恵比寿に限らず、どの店においても、積極的にチャレンジできる土壌はあると思っています。例えば、CO^2やゴミを削減するような取り組みは数多くありますが、そこにアトレならではの視点や工夫、すなわち「アトレフィルター」をかけることで、アトレの手にかかると非常に洗練された、魅力的なものに昇華させていけるような未来を目指したいと考えています。

後藤：アトレの企業理念である「お客様と地域の皆様に新しい価値を…いつまでも、しなやかに」という言葉は、今回の取り組みにおいてもそうなのですが、強く意識し続けることではじめて形になっていくものだと感じています。アトレが立地するそれぞれの街には、その地域ならではの魅力が必ず存在しているはずです。そういった地域固有の価値を、地域と連携しながら、時にはアトレが主体となって巻き込んでいくことで、新しい価値を創造し、地域社会と共に成長していければと願っています。

アトレの明日を拓くために

結びに —— 共感の輪を広げ、ステークホルダーと共に築く、アトレのサステナブルな未来

社長：皆様の熱意あふれるお話から、アトレのサステナビリティ活動が、各々の地域特性を深く理解し、そこに暮らす人々と真摯に向き合うことから生まれていることを改めて強く感じました。「100の街があれば、100の顔のアトレ」という私たちのミッションは、まさに皆様のような現場の知恵と情熱によって体現されています。

今回の受賞は、個々の活動の成果であると同時に、アトレ全体でサステナビリティに取り組む上での大きな推進力となるものです。皆様の取り組みから得られた貴重な知見や成功要因を共有し、全社的な活動へと昇華させていくことが、これからのアトレにとって不可欠となります。

私たちは、お客様、地域の皆様、お取引先様、そして社員一人ひとりの「共感」を原動力とし、それぞれの地域社会が抱える課題解決に貢献するとともに、地球環境との調和を目指していく必要があります。アトレは、これからも「きらめく街、ときめく暮らしの、はじまりに。」という価値を提供し続けるために、ステークホルダーの皆様との対話を重ね、しなやかに変化を捉え、持続可能な社会の実現に向けた挑戦を続けていくことを、ここに改めてお約束したいと思います。

アトレが大切にしていること

corporate philosophy

MISSION

100の街があれば、100の顔のアトレ

一つとして同じ街がないように、一つとして同じアトレはありません。

私たちは、その街ならではの風土や文化、歴史をとらえるためにマーケティングを重視しています。

「街の玄関口」として、駅の改札を出た時に街の雰囲気を感じられるような館づくりを行うとともに、「街の顔」として、様々なライフシーンに応えられるよう、その街に合ったリーシングやプロモーションの実施、地域とのつながりを活かした取り組みを行っています。

アトレは、街の魅力を最大限に引き出し、街とともに成長していきます。

PHILOSOPHY

お客様と地域の皆様に新しい価値を…いつまでも、しなやかに

私たちは、街のたたずまいやお客様の暮らしに寄り添い、日々を彩る楽しさや新たな出会いをお届けしたいと考えています。

世の中がめまぐるしく変わっていく中で、その変化にしなやかに対応し、さらにその先にあるお客様の満足や価値ある地域社会の未来に向けて貢献していきたい、私たちの企業理念にはそんな思いがこめられています。

いつもアトレが「きらめく街、ときめく暮らしの、はじまりに。」そうあり続けられることを目指し、「100の街があれば、100の顔のアトレ」というミッションに取り組んでまいります。

VALUE

きらめく街、ときめく暮らしの、はじまりに。

私たちは、いつの日にも魅力あふれる街の入口でありたいと考えます。そのために、お客様にとって「いつでも新しい発見や出会いがある場所づくり」「花や緑で彩られ誰もが心地よくほっとするような空間づくり」に取り組んでいます。

アトレを楽しむことは、その街のよさや雰囲気を知ることでもあり楽しむことでもあります。

“街と人の接点として　毎日立ち寄りたくなる、暮らしを豊かに彩る”私たちはそんな存在を目指しています。

atréの由来　アトレの語源は、「魅力」を意味するフランス語「attrait」。「attrait」には、愛着、好み、魅惑という意味もあります。

アトレのサステナビリティ

atré's sustainability

with atré

アトレ「と」ともに未来へつなぐ

変化の激しい時代をしなやかに歩み、100年先もその先も、魅力的なライフスタイルを提案し続けるために。
アトレは、関わる全ての方々と手を取り、街、環境、人との架け橋となり、持続可能な社会の実現を目指します。
より良い未来へ、ともに。　これが、私たちのサステナビリティへの思いです。

society

人と街をつなぐ

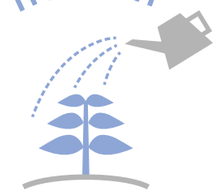
アトレは、街づくり、場づくり、人づくりを通して、アトレのある街との地域共創や魅力発信に取り組んでいます。
行政、学校、福祉、地元団体との連携を深め、活気あふれるコミュニティの形成や街の活性化、誰もが安心して暮らせる共生社会の実現に貢献していきます。

environment

私たちと未来をつなぐ

かけがえのない地球環境を未来世代へ引き継ぐために、事業活動全体で環境負荷の低減に真摯に取り組んでいます。
CO_2排出量と廃棄物排出量の削減、リサイクル率の向上などを推進し、脱炭素社会・資源循環型社会の実現を目指します。

human



働きがいと生きがいをつなぐ

人権尊重を基盤に、お客様、地域の方々、ショップクルーが安心して過ごせる快適な環境とアメニティを充実させています。
また、多様な社員一人ひとりが能力を発揮できるよう、人材育成と柔軟な働き方を推進し、Well-beingの向上を目指します。

with atré

株式会社アトレは、国連が掲げる
持続可能な開発目標（SDGs）に賛同しています。

atré sustainability Mark

「with atré」の想いを視覚化

アトレは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを可視化するため、この度「atré sustainability Mark」を策定しました。
ひらがなの「と」と「架け橋」をモチーフにしたこのマークは、「アトレと様々なものがつながって、より良い未来へ向かっていく」というコンセプトを表現しています。
アトレのサステナビリティメッセージ「with atré アトレとともに未来へつなぐ」を視覚的に表現し、社内外への浸透と認知向上、ブランディングにつなげることを目指しています。
ミッションである「100の街があれば、100の顔のアトレ」の多様性を表現するため、100色のカラーバリエーションを用意しました。今後、この「サステナビリティレポート2024」を皮切りに、本格的な外部発信を開始します。

※商標登録出願中

illustrator's comment

数年前から自分たちの生活、消費、暮らしの在り方を改めて問われる機会が増えたように感じます。
自分たちが生きる環境や暮らしが、今後も持続可能なものにするには、より長期的な視点でものごとを見つめ、行動に移すことが求められます。
首都圏の多くの人が利用する商業施設であるアトレが、サステナブルな活動を自発的に行い、その活動を世の中に認知させていくことは、持続可能な未来への重要なステップになると思います。この取り組みのキービジュアルでは、マークを介して人と街と暮らしが地続きでつながっています。
その表現のように、アトレの活動がきっかけとなって自分たちの暮らしが持続可能なものになれば嬉しく思います。

illustrator
西山　寛紀　Hiroki Nishiyama

東京を拠点に活動するイラストレーター。多摩美術大学大学院修了。対象を色面構成で絵画的にとらえる表現を得意とし、幅広い媒体でイラストレーションを手がける。最近の仕事にCONVERSE シューズカスタマイズデザイン、資生堂150周年「A BEAUTIFUL JOURNEY」SHISEIDO THE STORE店内リーフレット、UNITED ARROWSとのコラボレーションなどがある。作家活動では、主に日常を題材にした絵画を制作し、国内外で展覧会を開催している。

未来への架け橋となる活動を表彰

アトレは、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを全社的に推進し、ESG経営への理解と実践を深めることを目指しています。その一環として、2024年度より「アトレ サステナビリティアワード」を創設しました。このアワードは、アトレ各店・各部で実施されているサステナビリティやESGに貢献する優れた活動を表彰し、その知見や成果を社内外に広く共有することで、さらなる活動の進化や新たな挑戦を促すことを目的としています。初年度となる今回は、合計50件の多様な取り組みがエントリーされ、社員投票により、「独自性」「普遍性」「継続性」「実効性」の4つの観点から評価されました。その結果、アトレがサステナビリティにおいて重視する3つのテーマ「社会(Society)」「環境(Environment)」「人(Human)」における3つの部門賞と、最も優れた活動に贈られるグランプリ(社長賞)が決定しました。
アトレはこれらの活動を未来へつなぐ力とし、今後もサステナビリティへの挑戦を続けてまいります。

グランプリ(社長賞) Grand Prix Award 2024

プレイアトレ土浦

いばらきK1ライド

サイクリングイベント開催による地域活性化

「自転車のまち土浦」を体現する地域を代表する大型サイクリングイベント。2024年11月17日、ナショナルサイクルルート「つくば霞ヶ浦りんりんロード」を舞台に、3年連続での開催となりました。2024年は前年比約1.5倍となる約900名が参加し、うち8割以上が県外から、4割以上が宿泊を伴う来街で、高い経済効果も創出しました。沿線14市町村との連携により、エイドステーションで各地の特産品を提供するなど、食や観光資源を通じて茨城の魅力を発信し、地域の観光PRの場としても大きく成長しました。行政や地域事業者、ボランティアを巻き込んだ地域一体の運営で、自転車文化の浸透やシビックプライド醸成にも貢献しています。

社会部門賞 S category Award 2024

アトレ取手

VIVAフォーラム2025

アートを通じた対話による多様性への理解と街づくり

アトレ取手4階の文化交流広場「たいけん美じゅつ場 VIVA」を拠点とした取り組みです。VIVAの活動を毎年振り返り、地域や現代の課題・将来展望について、産官学(取手市、東京藝大、JR東日本、アトレ)と市民が共に議論する対話型フォーラムを2025年3月2日に開催しました。多様性を寛容する場づくりや、行政・教育機関を含めた街づくりを通して、共生社会の実現に貢献しています。

撮影:小野悠介

環境部門賞 E category Award 2024

アトレ恵比寿

エシカル消費を意識した館内装飾

装飾再利用などを通じた環境意識醸成

「飾って終わりにしない装飾」をテーマに、ロスフラワー®等を活用したプロモーション装飾を実施。また、その装飾を再利用したり、ドライフラワーブーケにしてお客様へプレゼントするなど、環境への配慮と「つくる責任、つかう責任」を意識した取り組みを行いました。お客様やショップクルーの環境意識醸成に大きく寄与し、持続可能な消費の実現に取り組んでいます。

人部門賞 H category Award 2024

アトレ竹芝

伊豆・小笠原諸島との連携企画

島嶼(しょ)連携・食文化発信によるWell-being向上へ

伊豆・小笠原諸島への玄関口としての役割を活かし、島への社員訪問や地域ワーキングへの参加など、島民との交流を行っています。さらに、2回目となる島食材を活用したレストランフェア「島を味わう Food Fest」を2025年3月1日〜31日に開催しました。島の食文化・魅力発信などを通じて相互理解を深め、地域経済の活性化や観光促進に具体的な成果を上げ、地域社会全体のWell-being向上に寄与しました。

HERALBONY Art Prize 2024 | JR東日本賞

岩瀬俊一展 IWASE SHUNICHI ARTS & MEETS

2.1(土) SAT → 3.14(金) FRI

アートが拓く、共生社会への扉

アトレはJR東日本グループの一員として、誰もが自分らしく輝ける共生社会の実現に向けた活動を推進しています。その重要な取り組みの一つが、「異彩を、放て。」をミッションに掲げる株式会社ヘラルボニーとの共創です。障がいのあるアーティストの活躍の場を広げ、福祉・アート・街づくりを有機的に結びつけることで、多様性を認め合い、共に未来を創造することを目指しています。

2024年、ヘラルボニー主催の国際アートアワード「HERALBONY Art Prize 2024」において、JR東日本グループの想いを込めた「JR東日本賞」が新設されました。記念すべき第一回の受賞作家に選ばれたのは、やまなみ工房(滋賀県)所属の岩瀬俊一氏です。緻密でありながらエネルギーに満ちあふれた受賞作品『インドネシアの影絵』は、多くの人々に感銘を与えました。この受賞を機に、アトレでは2025年2月から3月にかけて、岩瀬氏の受賞作をはじめ多彩な作品を紹介する巡回展『岩瀬俊一展 ARTS&MEETS』をアトレ4店(恵比寿・取手・上野・吉祥寺)にて開催しました。「ARTS&MEETS」というタイトルには、アート(ARTS)を通じて多様な人々が出会い(MEETS)、新たな発見や交流が生まれる場を創りたいという願いが込められています。本展を通じて、アール・ブリュット(生の芸術)の魅力に触れ、多様性への理解を深める機会を提供しました。これは、SDGsの目標達成にも貢献する、アトレのサステナビリティ活動の具体的な実践の一つです。

JR東日本賞受賞作品
『インドネシアの影絵』
岩瀬 俊一
2022
紙、色鉛筆、水彩顔料ペン
(Paper、Colorpencil、Pen)
size : 767×1087mm

ヘラルボニー HERALBONY

「異彩を、放て。」をミッションに、障がいのイメージ変容と新たな文化の創出を目指すクリエイティブカンパニー。国内外の障がいのある作家とIPライセンス契約を結び、自社ブランド「HERALBONY」の運営をはじめ、様々な形で異彩を社会に送り届ける多様な事業を展開しています。

illustrator

岩瀬 俊一 Iwase Shunichi

ペンを用いて人物や動物等、モチーフが決まると彼独自の視点で余白を余すことなく、紙面全てにゆっくりと描きこむ。彼の内向的で真面目な性格が作品にも反映され描く線の一つひとつがとても丁寧で、まるで細い糸が絡み合っているかのように繊細に描かれます。日常では、ほとんど言葉を発することのない彼の作品からは、内に秘めた思い全てが放出され、訴えかける力強さに満ちあふれています。

アトレ恵比寿

日常空間でアートに触れる

■展示期間：2月1日～12日

本館4階フォンテーヌ広場にて、『インドネシアの影絵』をはじめとする岩瀬氏の作品群(複製画中心)を展示。多くのお客様が行き交う空間で、気軽にアートに触れる機会を創出しました。また、本館5階の書店「有隣堂」と連携し、文庫本購入者に岩瀬氏のアートを用いたオリジナルブックカバーを配布。日常の読書シーンにも彩りを添えました。

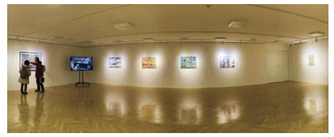
撮影：橋本美花

アトレ取手

対話を通じてアートとつながる

■展示期間：2月13日～19日

4階「たいけん美じゅつ場 VIVA」にて、受賞作『インドネシアの影絵』(原画)を含む作品群を展示。岩瀬氏が所属する「やまなみ工房」施設長・山下完和氏によるトークショーや、アート・コミュニケータ「トリばァ」との対話型鑑賞会を開催。作品の背景や魅力を深く知るとともに、アートを通じたコミュニケーションを体験する場を提供しました。



アトレ上野

食とアートの特別なマリアージュ

■展示期間：2月20日～28日

EAST1階のレストラン「The Arts Fusion by L'écrin」(旧ブラッスリー・レカン)にて、受賞作(複製画)の展示に加え、作品からインスピレーションを得た、期間限定のオリジナルアフタヌーンティーを提供。食を通じてその世界観を表現しました。さらに、岩瀬氏と施設長・山下氏をお招きし、受賞作『インドネシアの影絵』(原画)を一緒に鑑賞する特別鑑賞会も開催。旧国鉄上野駅貴賓室という優雅で歴史ある空間で、アートを深く味わう特別な体験を提供しました。

アトレ吉祥寺

アートとの出会いを広げる

■展示期間：3月1日～14日

東館B1階ゆらぎの広場にて、岩瀬氏の作品群(複製画中心)を展示し、多くのお客様に鑑賞いただきました。本館2階の書店「ブックファースト」との連携では、文庫本購入者にオリジナルブックカバーを配布。恵比寿店と同様に、アートがより身近な存在となるきっかけを提供し、文化的な体験価値を高めました。

society

人と街をつなぐ

society with atré

アトレ取手

茨城の地酒で地域の輪をつなぐ『SAKE MEETING2024』

アトレ取手では、文化交流広場「たいけん美じゅつ場 VIVA」にて、茨城県内の酒蔵が一堂に会する人気イベント『SAKE MEETING』を春と秋に開催しました。4月13日の春の回には約1,200名、10月5日の秋の回には約1,000名の日本酒ファンや地域住民が訪れ、県内各地の豊かな地酒の魅力を心ゆくまで堪能しました 。

この取り組みでは、毎回約18の酒蔵と連携し、参加者へ多様な日本酒との出会いの場を提供。来場者と生産者、そして地域を結びつけることで、取手の街に新たな賑わいと交流を生み出しています。地元の食文化の発信・体験により、多くの笑顔と共に、街の活性化と価値創造に貢献しました。

担当者VOICE

茨城の豊かな酒文化を味わい、人々がつながる「SAKE MEETING」。地域全体を巻き込む魅力的なイベントへと、さらなるアップデートにご期待ください。

アトレ取手　川村 和生

アトレ松戸

学生の力で食の魅力を共創 ～産学連携コラボメニュー開発～

アトレ松戸では、地元の聖徳大学・聖徳大学短期大学部、および館内レストラン「チーズエッグガーデン（東和フードサービス株式会社）」と連携し、学生が考案するコラボメニューを開発・販売しています。2024年7月12日からは、同大総合文化学科の学生10名が千葉県産食材を用いて考案した2品、2025年1月17日からは、人間栄養学部の学生63名が考案し学園祭の投票で選ばれた栄養パスタ4品が登場。この「食」を通じた産学連携は、学生に実践的な学びの機会を提供すると共に、地域のお客様へ新たな食の楽しみと価値をお届けしています。

担当者VOICE

聖徳大学の学生と東和フードサービスの熱意が結実したメニューが、多くのお客様にご好評いただき、大変嬉しく思います。

アトレ松戸　植田 美幸

アトレ新浦安

多様性が響き合う『第20回アウトサイダーアート展』

アトレ新浦安では、2024年9月24日～30日に第20回目となる『アウトサイダーアート展』を開催しました。地元の社会福祉法人「パーソナル・アシスタンスとも」との共催で、「混ざり合う個性」をテーマに、同法人の利用者が自由な発想で心の赴くままに創作した色とりどりの作品群を展示。作者本人も来場し、お客様と交流する機会も設けられました。2010年から続くこの取り組みは、障がいのある人もない人も、誰もが暮らしやすい地域づくりと共生社会の実現を目指すものであり、アートを通じた地域共創と、多様な個性が響き合う心豊かな街づくりに貢献しています。

担当者VOICE

地域との心温まるつながりを大切にし、理解を深めることで、「共に生きる」喜びと幸せを分かち合い、アトレ新浦安から笑顔の輪を広げていきたいと願っています。

アトレ新浦安　北里 淳子

アトレ大森

未来を担う子どもたちへ、学びと体験の場を提供

アトレ大森では、地域との連携を深めるために、地元小中学校との協働プログラムを推進しています。大田区御園中学校2年生には、アトレの仕事（事務所作業、館内巡回、イベント手伝い等）を体験する機会を3日間にわたって提供し、最終日には生徒による気づき・発見を共有する発表会を行いました。また、品川区入新井第一小学校5・6年生には、駅ビルの役割やSDGsについて学ぶ出張授業と館内見学を実施し、生徒が感じたアトレ大森の魅力をポスターやパンフレットで表現・発信する活動を行いました。これらの活動を通じ、子どもたちが商業施設や社会への興味を育むと共に、将来のキャリアを考えるきっかけを創出し、地域社会への貢献を目指しています。

担当者VOICE

地域連携の一環として、近隣の小中学生をアトレの職場体験にお迎えしました。未来の担い手たちとともに地域社会とのつながりを育んでいます。

アトレ大森　栗田 健太郎

©国連UNHCR協会

アトレ各店

お客様と紡ぐ支援の輪『国連難民支援キャンペーン』が12年目に

アトレ各店で実施する、特定非営利活動法人国連UNHCR協会（国連の難民支援機関である国連難民高等弁務官事務所《UNHCR》の活動を支える日本の公式支援窓口）との連携による難民支援募金活動『国連難民支援キャンペーン』が12年目を迎えました。
2013年からの11年間で計78回開催し、約4,200名の方々から累計6億円相当（ご加入いただいた毎月支援額の12ヶ月換算）を超える温かいご支援を賜り、難民援助活動に役立てられています。
2024年度は、新たにアトレ7店で計8回のキャンペーンを実施し、214名の方より669万円相当（毎月支援額の12ヶ月換算）のご支援をいただきました。皆様の温かいご支援に心より感謝申し上げます。アトレはこれからも、お客様や地域の皆様とともに、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

〈 寄付先からのメッセージ 〉

JAPAN FOR UNHCR
難民を守る。難民を支える。
国連UNHCR協会

国連の難民援助活動に協力したい。そのための公式支援窓口です。国連UNHCR協会

UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）は1950年に設立された国連の難民支援機関です。紛争や迫害により故郷を追われた難民・避難民を国際的に保護・支援し、難民問題の解決に対して働きかけています。1954年と1981年にノーベル平和賞を受賞。スイス・ジュネーブに本部を置き、約130か国で援助活動を行っています。この国連の難民支援活動を支えるため、広報・募金活動を行う公式支援窓口が、国連UNHCR協会です。
皆様の温かいご支援に心より感謝を申し上げます。

担当者VOICE

一人ひとりの温かいご支援が、世界を変える力になります。今後も地域のお客様とともに、活動の輪を広げてまいります。

総合企画部　朝鳥 沢子

アトレ吉祥寺

成蹊大学井上淳子ゼミとの産学連携で、未来の価値を共創

アトレ吉祥寺では、地域社会との連携を深め、未来を担う若い世代との価値共創を目指し、成蹊大学経営学部・井上淳子教授の専門ゼミ「戦略的問題解決型プロジェクト演習A」と連携した産学連携授業を実施しました。2024年度は「アトレ吉祥寺は、いかなる媒体で、いかなる情報を、ターゲットへ発信すべきか」を共通課題とし、特に若年層への効果的なアプローチについて探求しました。アトレ吉祥寺の社員（同大学OB）による現状課題の講義の後、学生たちはチームに分かれ、自由な発想でSNS活用、イベント企画、新しい館の利用法など、多彩で具体的な解決策を企画・提案しました。アトレ社員も学生発表の講評に参加し、熱意ある提案に触れました。この実践的な学びの場は、学生に地域ビジネスへの深い理解と課題解決の経験を提供するとともに、アトレが地元の若い世代の視点を取り入れ、吉祥寺の街とともに成長するための貴重な共創の機会となっています。

担当者VOICE

未来を担う学生たちが、マーケティング理論と豊かな発想力でアトレ吉祥寺の課題に挑戦。その柔軟な提案は、新たな可能性を示唆し、双方にとって価値ある学びの機会となりました。

アトレ吉祥寺　吉岡 高宏

アトレ川崎

市制100周年記念、移動プラネタリウムで100年前の星空を再現

アトレ川崎では、川崎市市政100周年を祝い、2024年7月20日・21日に移動プラネタリウムイベントを開催。1924年当時の川崎の星空を再現し、地域の歴史と宇宙の神秘を親子で体験できる機会を提供。街の記念すべき節目を共に祝いました。

担当者VOICE

会場はファミリー層で賑わい、100年前の夜空を興味津々にご覧になっていました。目を輝かせながら見入るその姿がとても印象的でした。

アトレ川崎　永田 英奈

アトレ大井町

茨城の恵みを大井町へ、JAとの地域連携も

アトレ大井町では、2024年9月2日～30日に「茨城を推す1ヶ月」と題したフェアを開催し、茨城県産の旬の食材を使用した期間限定商品の販売や、館内のカフェ・レストランによるオリジナルメニュー提供を行いました。11月9日・10日には、JA水郷つくばと連携した「れんこんday」も実施。特産れんこんの試食販売やレシピ紹介に加え、親子向けの「れんこん教室」を開催。都市と産地をつなぎ、地域産品のPRと相互理解を深める、実りある機会となりました。

担当者VOICE

「街の魅力を届けたい」そのシンプルな想いがプレイアトレ土浦との連携を生み、お客様の笑顔という最高の喜びにつながりました。

アトレ大井町　林 航平

アトレ各店

アトレが耕す、地域の未来「アトレのはたけプロジェクト」

耕作放棄地を活用した「アトレのはたけ」は、2017年3月に、JA水郷つくば、ヨリアイ農場と連携し、茨城県土浦市に開園した体験型農園です。農作物の栽培や食文化の発信、農業体験イベントを通じて地域との絆を育んでいます。2024年度は過去最多76名のお客様をご招待。アトレ恵比寿、松戸、亀戸、浦和のお客様を対象に、収穫にとどまらない多彩な食育体験や配布会などを行いました。土からはじまる新たな挑戦を通じ、地域と都市の絆づくりを推進しています。

担当者VOICE

地域課題の解決を目指してはじまった「アトレのはたけプロジェクト」。都会のお客様に土との触れ合いと収穫の喜びを提供する体験型農園として親しまれています。

プレイアトレ土浦　和田 泰輔

environment

私たちと未来をつなぐ

environment with atré

環境方針

株式会社アトレは、駅と街を結ぶ多彩なショッピングセンターを展開する商業ディベロッパーとして、地球環境の保全および改善に貢献することが社会的責任であると考え、以下の内容に全社を挙げて取り組みます。

脱炭素社会への貢献

- JR東日本グループの環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」に基づき、グループの一員として、2050年度のCO_2排出量実質ゼロに挑戦します。
- 環境に配慮した高効率機器の導入や運用改善に取り組み、省エネ化を推進します。

サーキュラーエコノミーへの移行推進

- ショップと連携し、当社およびショップが排出する廃棄物の削減とリサイクル率向上に努め、3R（Reduce・Reuse・Recycle）を推進します。資源循環型社会の実現を目指し、協力体制を強化します。

環境意識の向上

- 環境をテーマにした社会貢献活動やイベント等の環境施策に取り組みます。
- 環境意識に関する社内の風土づくりを推進するため、セミナーなどを通じた教育・啓発活動に積極的に取り組みます。

環境目標 2030

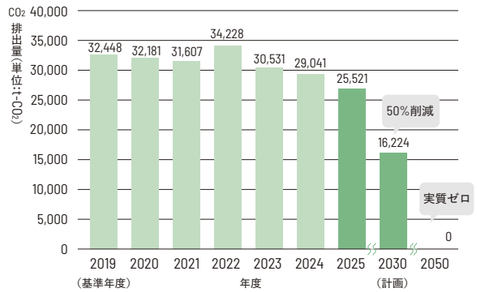
項目		環境目標	具体的な取り組み
脱炭素社会への貢献	CO_2排出量の削減	CO_2排出量 2019年度比 50% 削減	● 再生可能エネルギーの利用拡大
	省エネ化の推進	電気・ガス等の使用量原単位 5年度平均 1% 削減 ※原単位は使用熱量を「延床面積×営業時間」で除したもの ※熱量換算係数を省エネ法に準じた係数に変更 ※環境保全法令の遵守に対応	● 節電の実施 ● 夏のライトダウンの実施（一部の館を除く） ● 環境に配慮した高効率機器の導入や運用改善
サーキュラーエコノミーへの移行推進	廃棄物の削減およびリサイクル率の向上 ※一般廃棄物・産業廃棄物・食品廃棄物・プラスチック	一般廃棄物リサイクル率 100%	● ゴミ分別の徹底
		産業廃棄物リサイクル率 100%	
		食品廃棄物原単位 2020年度比 50% 削減	● 生ごみ処理機の運用 ● フードロス削減施策の実施
		プラスチック排出量原単位 2019年度比 30% 削減	● プラスチック製品の代替素材への切替推進
環境意識の向上	環境をテーマにした社会貢献活動への参加やイベント等の環境施策の実施		● 衣料品回収活動の実施 ● 地域清掃活動への参加 ● 施策の社内外への情報発信
	環境データの共有やセミナー・啓発活動の実施		● 各館ごとの環境データの共有 ● 社員向けセミナーの実施

JR東日本グループ ゼロカーボン・チャレンジ 2050

JR東日本グループの一員として、CO_2排出量を2030年度までに「50%削減」、2050年度までに「実質排出量ゼロ」を目指す「ゼロカーボン・チャレンジ 2050」に参画しています。アトレ全店において省エネを徹底し、設備機器における環境に配慮した高効率機器への切り替え、再生可能エネルギーの導入等を計画的に進め、CO_2排出量削減に努めていきます。

CO_2排出量の削減

2024年度は、環境価値証書やオフサイトPPAの導入等により、アトレ目黒2、アトレ大井町、アトレ大森の電力を実質再生可能エネルギー由来のものに切り替えました。引き続き、再生可能エネルギーの有効活用を推進し、2030年度のカーボンハーフを目指します。



省エネ化の推進

2024年度のエネルギー使用量原単位は5年度平均1.73%と増加しました。2025年度はさらなる省エネを推進するとともに、オフサイトPPAの導入等によりエネルギー使用量原単位5年度平均1%削減を目指します。

年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度（計画）
エネルギー使用量（単位：kl）	17,272.43	17,163.14	17,731.67	18,087.35	16,496.88	16,318.83
エネルギー使用量原単位（単位：kl/㎡・h）	10.14	10.03	10.44	10.67	9.76	9.66

※2024年度より省エネ法改正に伴い、新換算係数にて算出

ライトダウンキャンペーンの継続的な実施

2006年度より施設の一部照明を消灯するライトダウンを毎年実施し、CO_2排出量の削減、省エネに取り組んでいます。2024年度は126.4kWhを削減しました。

環境価値証書を活用した再エネ化の取り組み

アトレ目黒2では、非化石証書を活用し、使用する電力を実質再生可能エネルギー由来の電力に切り替えました。

電力リサイクルループの実現

食品廃棄物を活用した電力リサイクルループを2024年6月にアトレ大森で開始しました。これは、排出される食品廃棄物をJR東日本グループが連携して収集・運搬し、バイオガス由来の電力を生成し、その電力を同施設で使用するものです。廃棄物を再生可能エネルギーとして循環させることでCO_2排出量の削減と資源の有効活用を目指しています。

オフサイトPPAの導入

アトレ大井町では、敷地外の太陽光発電所から電力を供給するオフサイトPPAを導入しました。今後も、オフサイトPPAの導入拡大を検討し、脱炭素社会の実現と省エネに貢献します。

廃棄物排出量の削減と リサイクル率の向上、3Rの取り組み推進

サーキュラーエコノミーへの移行を推進するために、ショップと協力し、3R（Reduce・Reuse・Recycle）の取り組みを実施しています。廃棄物の排出量削減やリサイクル率向上、廃棄物を資源と捉えた再利用の実現を目指しています。

廃プラスチックの資源循環（pool）

レコテック株式会社が展開する東京都実装化事業「pool事業」へ参画し、衣料品ショップから排出される軟質ビニールの回収に取り組むことで、廃プラスチックの資源循環を行っています。

- 2024年度実績｜アトレ恵比寿本館：496.3kg、アトレ川崎：35.7kg
- 参加ショップ数｜アトレ恵比寿本館：14ショップ、アトレ川崎：10ショップ

フードリサイクルの取り組み（JBiO）

対象店から排出された食品廃棄物が、株式会社Jバイオフードリサイクルによって、バイオガスにリサイクルされ、発電燃料として活用されています。

対象店

アトレ恵比寿本館、西館／アトレ目黒1、2／アトレ五反田1、2／アトレヴィ大塚／アトレ大井町、2／アトレ大森、2／アトレ四谷／アトレ信濃町／アトレヴィ東中野／アトレ浦和／アトレ秋葉原1、2

- 2024年度実績｜1,178,284kg

生ごみ処理機の運用

食品廃棄物排出量削減およびCO_2排出量削減を目的として、アトレ吉祥寺に「生ごみ処理機」を導入しています。

- 2024年度実績｜23,208kg

紙資源のリサイクル化

アトレ本社に機密書類回収BOXを設置し、不要になった書類の回収を行っています。シュレッダー処理をしていた書類を「安全」に回収して溶解処理を行い、リサイクルを推進しています。

- 2024年度実績｜628kg

フードロス削減の取り組み（mottECO）

食品廃棄物削減を目的に、飲食ショップにおける食べ残しを持ち帰る取り組み「mottECO（モッテコ）」のトライアルを、アトレ大森の一部ショップで実施しました。

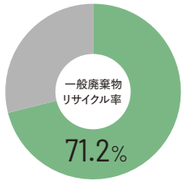
※ mottECOとは、環境省が提唱する、飲食店で食べきれなかった料理をお客様自身の責任で持ち帰る行為の愛称です。

廃棄物（一般・産業）の削減

一般廃棄物・産業廃棄物について、排出量・リサイクル率の目標を達成すべく、契約先や契約内容を見直しています。

一般廃棄物

- 2025年度目標
  リサイクル率｜79%
- 2024年度実績
  排出量｜9,086t
  リサイクル率｜71.2%



産業廃棄物

- 2025年度目標
  リサイクル率｜100%
- 2024年度実績
  排出量｜2,678t
  リサイクル率｜100%

廃食用油リサイクルループへの参画

リサイクルを目的に、株式会社JR東日本商事が構築する廃食用油のリサイクルループに参画しています。対象店から排出された廃食用油は、三和エナジー株式会社に持ち込まれ、バイオディーゼル燃料として再生・利活用されています。JR東日本グループ内における利活用では、2024年11月より第一建設工業株式会社の研修センターで使用する「訓練用軌道モータカー」へのB100燃料使用実験が進められています。

対象店

アトレ恵比寿／アトレ目黒1／アトレ五反田2／アトレ品川／アトレ大井町／アトレ信濃町／アトレ吉祥寺／アトレ上野／アトレ松戸／アトレ亀戸／アトレ新浦安／アトレ取手

プラスチック排出量原単位の削減

2030年度までにプラスチック排出量原単位30%削減（2019年度比）の目標に対し、2024年度は20.2%の削減となりました。

社内風土づくり、教育・啓発活動

環境担当者会議の開催

アトレ各店の環境担当者が集まり、会社全体および各店の環境活動データや取り組み状況について情報交換を行う会議を定期的に実施しています。2024年度は各店の省エネ推進を目的として、JR東日本ビルテック株式会社による「エネルギー管理スキルアップ講習」を行いました。

エネルギー管理講習の受講奨励

省エネ法に基づくエネルギー使用の合理化等について、必要な知識と技能を習得することを目的に、法定講習の受講を奨励しています。2024年度末時点での取得者数は73名となりました。

グリーン購入の実践

コピー用紙をはじめとした事務用紙製品は、原則として再生紙を購入・使用することで環境負荷低減を図っています。消耗品全般についても、環境への負荷が低い製品を優先して購入しています。

アトレ新浦安

衣料品回収活動

アトレ新浦安では、2024年11月18日に地元団体「ファイバーリサイクルうらやす」、ユニクロと連携し、衣料品回収活動を実施しました。多くのお客様にご協力いただき、約90kgの衣料品が集まりました。ご提供いただいた衣料品は、難民支援・医療支援・教育支援に有効活用されます。

アトレ四谷

みんなでつくる『atré YOTSUYA ART WEEK』

アトレ四谷では、2024年10月1日～31日に3回目となる『atré YOTSUYA ART WEEK』を開催しました。2024年度は「みんなでつくる」をテーマに、地域のお客様から提供された古着を素材としたアート作品を館内に展示しました。廃棄物でつくるワークショップ等を通じて、アトレ四谷からサステナブルな取り組みを発信しています。

担当者VOICE

資源循環と再生可能エネルギーの導入を加速させることで、脱炭素社会の実現に貢献し、次世代に持続可能な社会を引き継いでまいります。

総合企画部　本橋 かおり

働きがいと生きがいをつなぐ

human with atré

多様な人々との共生を目指す、JR東日本グループの人権尊重

JR東日本グループの人権推進と基本方針

JR東日本グループは2023年3月、「人権基本方針」を策定し、お客様、地域社会、ビジネスパートナー、社員を含む全ての人々の人権尊重を推進しています。この方針に基づき、2024年3月には全社員を対象とした人権啓発研修を実施。人権意識の向上を図るとともに、多様性を尊重し、誰もが安心して活躍できる社会の実現に貢献しています。基本方針を軸に、今後も人権尊重の取り組みを深化させてまいります。

コンプライアンス強化と人権保護「公益通報制度」

JR東日本グループでは、法令や企業倫理に反する行為、人権侵害行為などを早期に発見・是正するため、社内外に公益通報窓口を設置しています。社員が安心して相談・通報できる体制を整備し、研修等を通じてその利用を周知徹底しています。これにより、透明性の高い企業運営を推進し、コンプライアンス意識の向上と人権尊重の企業文化醸成を図ってまいります。

誰もが安心して利用できるアトレへ「合理的配慮ガイドライン」

アトレでは、これまでにお客様からいただいたご要望に基づき、社員向け「合理的配慮の提供ガイドライン」を2024年10月に策定しました。多様な場面を想定した対応案を示すとともに、障害者差別解消法の趣旨を踏まえ、状況に応じた柔軟な対応の重要性を強調しています。本ガイドラインを活用し、お客様一人ひとりが快適に過ごせる環境づくりを推進してまいります。

「対話の森研修」でダイバーシティとサステナビリティを学ぶ

2025年2月に、経営幹部を対象にしたダイバーシティとサステナビリティの本質を学ぶ研修を、アトレ竹芝の『ダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森®」』で実施しました。視覚を閉ざした暗闇体験を通じて、表層的な多様性にとどまらず、深層的・内面的な多様性への認識を深め、多角的な視点を醸成。また、持続可能な経営の視点から思考力を養い、実践につなげることで、未来を見据えた経営推進に役立てます。

担当者VOICE

全ての人々の人権を大切にし、人権リスクの予防に努めています。研修等を通じて、人権と多様性への理解を深め、誰もが安心して活躍できる社会を創造してまいります。

総務部　小森　一美

お客様の笑顔と満足が生まれる、誰もが心地よい空間づくり

お客様ニーズに基づくサービス向上への取り組み

多様なチャネルを通じてお客様のお声を集め、蓄積・分析することで、潜在的な期待に応えるサービス提供と継続的な改善に努めています。お客様の声に真摯に向き合い、日々のサービス向上を目指します。

安らぎと癒やしのグリーンデザイン

共用部には、自然を感じるデザインと季節の花々や緑を配置。忙しい日常の中、お客様が穏やかな気持ちになって、リラックスできる空間を演出しています。

くつろぎの休憩スペース

カフェのような椅子と緑を配し、館内の雰囲気に合わせた休憩スペースをご用意。訪れたお客様に、ゆったりと心安らぐ時間をお過ごしいただきたいと考えています。

洗練されたトイレと安心の授乳室

清潔さと使いやすさに配慮し、館内デザインと調和するトイレや授乳室を整備。お客様がより快適にご利用いただけるように、心地よさを追求しています。

アトレ松戸

ベビールームをリニューアル

お客様のお声を受け、アトレ松戸5階ベビールームを改装。内装を一新し、明るく、性別を問わないデザインを採用。授乳室を個室化することで、安全性も向上しました。

ショップクルー一人ひとりが輝けるショッピングセンターへ

アトレの頂点！2024年度ベストオブアトレ表彰

売上と地域貢献度、お客様からの評価などを総合的に判断し、2024年度アトレ各店のNo.1ショップを選出しました。その輝かしい功績を称え、事業方針説明会にて「ベストオブアトレ」として表彰を行っています。

採用を強力サポート！

求人難にお悩みのショップを支援！掲載料無料の「アトレスタッフ募集サイト」を用意しています。ショップの採用活動を強力にバックアップします。

学びと交流で成長を支援

リアル店舗の魅力を磨くため、顧客視点を重視した本社企画のCSサポート研修を開催。集合研修により、活発な意見交換を促進します。各店では、ショップ固有の課題解決に向けたテーマ別研修を定期実施。実践的な学びで現場力を高めます。

クルー向け防火・防災お役立ち動画

もしもの時に慌てないために！防火・防災の基本と初動対応を習得できる研修動画を制作しました。新人にも分かりやすい短編動画で、スキマ時間に学習可能。クルー全体の防火防災意識向上を図ります。

アトレ吉祥寺

クルー専用無人ファミマ誕生！

アトレ吉祥寺東館2階クルーラウンジ内に無人コンビニ「ファミリーマート」がオープン！TOUCH TO GOの無人決済システムで、手軽かつ短時間で利用できます。忙しいクルーの休憩時間をサポートし、働きやすい環境づくりを推進します。

アトレ恵比寿

クルーラウンジをリニューアル

アトレ恵比寿本館6階クルーラウンジを14年ぶりに刷新！席数増を最優先に、短時間でも効率的に休憩できる清潔で快適な空間を目指しました。日々忙しいクルーのストレス軽減をサポートします。

担当者VOICE

お客様の快適なお買物体験と、働く仲間の満足度向上を追求するため、空間・環境整備と教育・支援施策を着実に実行してまいります。

運営推進部 CS推進室　関 玲奈

成長意欲を後押し、社員の可能性を拓く

社員の声が未来を創る「ホンネ祭」で変革実現

社員の声を会社が真剣に受け止め、アトレの未来を考える「ホンネ祭（ホンネフェス）」を2024年9月に開催。2024年度は9件の提言から「生成AIツール導入」「まちづくりラボ発足」「奨学金返還支援制度」などが実現！社員のホンネがアトレの未来を動かす原動力となっています。

組織の強みと課題を可視化「従業員サーベイ」

組織の強みと課題を定量的に把握するため、年一度の「従業員サーベイ」を実施。顕在化した課題は全社で共有し、事業計画や中期経営計画に活用。社員の声が組織成長の羅針盤となる重要な取り組みです。

主体的な学びを支援！オンライン動画研修「Schoo」

社員の主体的な学びを支援するため、オンライン動画研修サービス「Schoo」を導入。自発的な活用に加え、階層別研修の選択制コースに採用し、社員が自身の課題や伸ばしたいスキルに合わせて学習できる環境を提供しています。

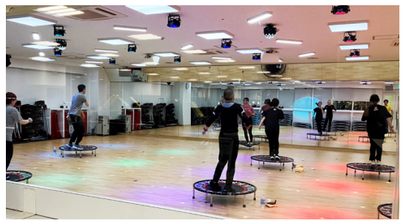
多様な才能が開花する組織へ、社員のWell-beingを追求

多様な働き方を実現、全店フレックスタイム制を導入

これまで限定導入だったフレックスタイム制が、コアタイムを工夫することで2025年2月よりアトレ全店に拡大。これにより、社員一人ひとりのライフスタイルに合わせた柔軟な働き方が可能に。ワークライフバランスを向上させ、効率的かつ自律的な働き方を支援する環境を整備しました。

心身をリフレッシュ！ジェクサー貸切イベントで健康増進

社員の心身のリフレッシュと健康意識向上を目的とした「ジェクサー大塚店」貸し切りイベントを、2025年2月20日に開催。運動を通じて日頃の疲れを癒し、健康維持への意識を高めました。



心の健康を守る、メンタルヘルス研修

全社員を対象に、メンタルヘルス対策として「レジリエンス研修」と「マインドフルネス研修」を実施。ストレスへの適切な対処法や基礎知識の習得を図りました。社員一人ひとりが心身ともに健康で、安心して活躍できる環境づくりを推進します。

歩いてつながる！ アトレウォーキングイベント

社員交流と健康意識向上を目的に、2025年1月に「アトレウォーキングイベント」を開催。合計26チーム、215名の社員が参加しました。歩くことの楽しさを実感し、コミュニケーションを深める良い機会となりました。

未来の健康のために、オンライン特定保健指導を開始

社員の将来の健康を守るため、オンラインで参加できる特定保健指導プログラムを開始し、受診率向上を図っています。手軽に専門家のアドバイスを受け、生活習慣病予防に取り組める機会を提供しています。

担当者VOICE

社員の多様な成長はアトレの成長と捉えています。「働きがい」と「働きやすさ」の両方を追求することで、社員のWell-being実現を目指した様々な取り組みを推進しています。

総務部　齋藤 大弥

サステナビリティ指標（KPI）

人と街をつなぐ｜society with atré

■地域共創・価値創造

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
連携協定を締結している自治体・団体数	-	8	-	-	-	
加盟団体数	-	131	-	-	-	
SDGsに関連したアトレ各店の取組み・イベント開催数	240	366	152.5%	400	440	回

私たちと未来をつなぐ｜environment with atré

■脱炭素

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
ゼロカーボン・チャレンジ 2050 CO_2排出量 増減率（基準年度：2019年度）	▲15.3	▲10.5	68.6%	▲21.3	▲32.8	%
エネルギー使用量原単位	10.56	9.76	108.2%	9.66	9.47	kl/㎡・h

■サーキュラーエコノミー

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
一般廃棄物リサイクル率	75.0	71.2	94.9%	79.0	87.0	%
産業廃棄物リサイクル率	100.0	100.0	100.0%	100.0	100.0	%
一般廃棄物排出量原単位	-	5.33	-	-	-	
産業廃棄物排出量原単位	-	1.57	-	-	-	
食品廃棄物最終処分量原単位増減率（基準年度：2020年度）	▲20.0	21.9	▲109.5%	▲23.3	▲35.0	%
ワンウェイプラスチック使用量原単位	-	7.6	-	-	-	
ワンウェイプラスチック代替素材等切替原単位	-	11.1	-	-	-	
プラスチック排出量原単位増減率（基準年度：2019年度）	-	▲20.2	-	▲21.6	▲24.6	%

■環境意識向上

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
エネルギー管理講習受講者累計数	72	73	101.4%	78	-	人

働きがいと生きがいをつなぐ｜human with atré

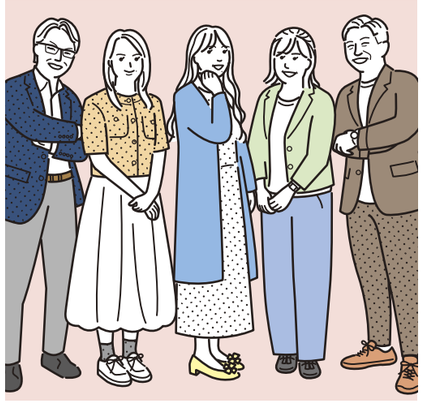
■人権／顧客満足・従業員満足

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
コンプライアンス研修受講率	100.0	100.0	100.0%	100.0	-	%
お客様からいただいたお声の件数	-	2,040	-	-	-	件
顧客満足度スコア（JR_商業施設調査）	-	25.2	-	26.0	27.0	スコア
テナント従業員満足度スコア（JR_商業施設調査）	-	37.0	-	38.0	39.0	スコア
顧客推奨度NPSスコア（JR_商業施設調査）	-	-18.9	-	-	-	スコア
テナント従業員推奨度eNPSスコア（JR_商業設調査）	-	-27.5	-	-	-	スコア

■人材育成・Well-being

内容	2024年度目標	2024年度実績	達成率	2025年度目標	2027年度目標	単位等
所定外労働時間（計画義務）	10	10.9	91.7%	10	-	h / 月
有給休暇取得率（計画義務）	90.0	88.8	98.7%	90.0	-	%
女性採用比率（公表義務）	-	70.0	-	-	-	%
女性労働者比率（公表義務）	-	61.8	-	-	-	%
女性管理職比率（公表義務）	-	34.3	-	-	-	%
男女間賃金差異率（公表義務）	-	72.0	-	-	-	%
男女間平均勤続年数差異率（公表義務）	-	94.0	-	-	-	%
中途採用比率（公表義務）	-	45.0	-	-	-	%
平均勤続年数	-	13.1	-	-	-	年
平均年齢	-	41.3	-	-	-	歳
離職率	-	3.0	-	-	-	%
男性育児休職取得率（公表義務）	-	100.0	-	-	-	%
女性育児休職取得率（JRG公表義務）	-	100.0	-	-	-	%
障碍者雇用率	-	1.61	-	-	-	%
研修受講者率（研修受講者数/社員数）	90.0	93.0	103.3%	95.0	95.0	%
ビジネスマネージャー検定合格者管理職比率	80.0	43.8	54.8%	100.0	100.0	%
ITパスポート取得者率	25.0	7.2	28.8%	50.0	100.0	%
健康診断受診率	-	100.0	-	-	-	%
ストレスチェック受検率	-	92.8	-	-	-	%

Editor's note



アトレが描く未来予想図
～街と、人と、地球と、もっと良い関係へ～

アトレのサステナビリティへの想いを込めた本レポートをご覧いただきありがとうございます。「社会」「環境」「人」をテーマに、私たちが大切にしている地域とのつながり、地球環境への配慮、そして社員一人ひとりの働きがいについて、具体的な取り組みと実際に担当した社員の声を交えてご紹介しました。アトレの未来に向けた挑戦を身近に感じていただければ幸いです。

《サステナビリティレポート編集委員》
アトレのサステナビリティを推進する本社メンバーで構成されています。
総　務　部　　内田 吉彦
運営推進部　　小林 延江
開発企画部　　田立 博文
総合企画部　　朝鳥 沢子、本橋 かおり

atré
2024年度サステナビリティレポート
対象期間｜2024年4月～2025年3月　　2025年6月発行
https://www.atre.co.jp/company/

株式会社アトレ
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿4丁目1番18号　恵比寿ネオナート6F